

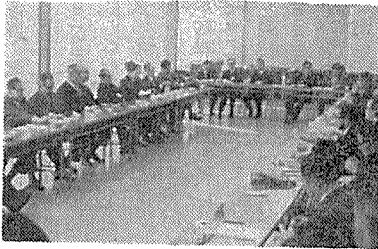
教授選考強行さる

医学部改革の

前途は多難

大学紛争後、大学運営の改革が、考査委員会が設置され、無給医、学いた無給医の念や、学生自治会の叫ばれ、その第一目標として教授生は選挙委員会からはなされた。教授会に対する不信の念は当然す選挙方法の改革が検討されること。又、教授選挙の最終決定権は従ふものかもしれない。

来と同様に教授会だが、教授会は反対意見には一



沈黙する教授会

新教授は次の通りである。

村山 智	薬理学
牧野博安	腦外科
岡本昭二	皮膚科
奥田邦勇	第一内科
熊谷 朗	第二内科

四六研修団体案

全面拒否さる

三月十三日、救護会と四六研修
医団体との話し合いが行なわれ、
四六側の研修要望案は全面的に拒
否された。

今回の卒業生のうち、学外に研
科約五名となっている。

外科（脳外も含む）約十八
名、内科約二十名、整形約八名、
産婦人科約四名、皮膚科約三名、
眼科約四名、小児科約二名、精神

香月教授
病院長に

学部教授選考は、そのスター混乱もなく、「医学部附属病院長もかわらず、結局、目立つ候補者推薦についての暫定申し合わせ」(二面参照)により、推薦革新もなく混乱を残したまま従う。同様に教授会で決定されてしたが、その後、続いた病院長は学生層の無関心化により、病院長兼初部、病院事務部より各二

圖書館第一期分

工事完成する

十数年来懸案となっていた医学部の図書館の新設は昨年十一月より開始されていたが、このほど第一期分工事、二階建一三〇㎡が完成した。

しかし、今回の第一期分工事の建設では図書館の中核とも言うべき書庫や閲覧室の大部分が建設されていないため、早急なる第二期分工事の建設が期待されている。

新設される図書館の主な業務内容は次の通りである。

一、現在教室に分散している資料をできるだけ中央化する。

二、TELAX、電動密集書架などなるべく機械化する。

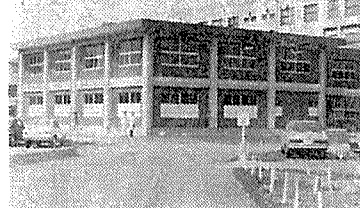
三、複写などのサービス化する。

四、カンファレンス・ルームや視聴覚教室、セミナー・ルームなどの部屋を設ける。

五、冷暖房設備を設置する。

今後の運営に関しては検討中であるが図書館側としては要望している。





は要望している。

名、計八名で構成され、その推薦委員会からの推薦者を教授会が選考、決定することになった。そして三月十五日の投票の結果香月教授が病院長候補者となった。

(香月秀雄教授略歴)

昭和十六年	千葉医科大学卒業
三十七年	肺研教授
四十二年	肺研施設長に併任
四十四年	評議員、学長事務取

扱

人数の配分・医員の身分上の大切なことについては委員会であつていくが、そこでどうしてもまとまらないときは、科長にまかせる。

【解説】 以上の見解からも明らかのように、に授授会の姿勢は極めて対策的、官僚的であり、回答内容は全面的拒否に等しいと言えよう。このような教授会の研修教育に対する保守的、不誠実な態度は、決つて守つてしまつて上ではなかつた、毎

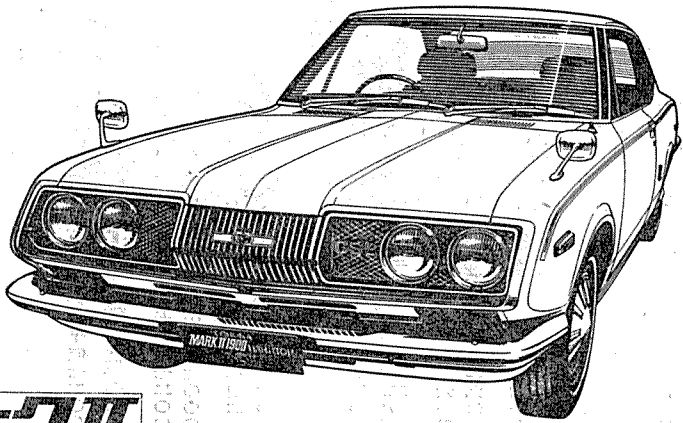
年繰り返されるこの研修問題が一向に解決されないのは、やはり、教授会が不十分な大学教育を補うのに必要な研修教育のビジョンを持っていないからではないだろうか。研修問題の早期解決に努力してもらいたいものだ。

今回の図書館新設により、いよいよ医学部内にも学問の基盤の統合が始まったわけであるが、現在のバラバラな図書分散を集中し、かつ蔵書の大増を期待したいものである。

ごぞうろっふ

は出来ないことだ。だが、そんな不正をやつと、やつと入ったはずの者でも卒業して医師免許をとつて立派（？）にやつてゐる者もあるという。そうすると現在のむづかしい大学入試はどういう意味があるのだらう。▼さて、苦勞の切はまづ医学部に入学してみると医進の切はまったく高校の延長で、ここで学生は虚脱状態になり、ボケトツとなつてしまふ。やつとあこ

としてボンヤリする。それでもなん
 とか試験はこなして行く。▼だが
 苦労していき卒業してみても、患
 者に接すると実陸の事が何も出
 来ない自分に気付くのである。そ
 れは、大学の講義が最先端の知識
 数載えてくれても、日常的な手柄
 は満足に指導してくれないからで
 ある。そこで頼みとなるのが卒業
 修得である。ところが、毎年話題
 となる様に卒後のめんどろは見え
 ないというのが大学の伝統である。
 そこで、止むなく独学となるので
 ある。▼こんな医学生の入学一率
 桑のサイクルを見ていると、まっ
 たく今の医学教育に無駄が多いの
 に気付く。そして、その分だけ卒
 業教育の必要性が増しているのだ
 ある。だが毎年なされる対策はい
 つも場当りのであり、不十分な
 のは明らかである。医学部の目的
 が立派な医師養成ならば、教授会
 は早急に卒後教育をも含めた大学
 の力キ・ユラムの改革について、
 学生も混じえて討論・検討するべ
 きであつう。



精かなイーグルマスクが魅力。

これが新型マークIIです。

- 力強くユニークなスタイル ● 豪華でしかも安全になった装備
● 一段と余裕をました高速性能 ● 1900(セブン)にSL車新発売

マークII/コ罗纳/ハイエース/トヨエース/マークIIバン


 ★★★★★県内最大のサービス網を誇る★★★★★
千葉トヨペット
 本社・千葉市稲毛海岸4-5-1 ☎0472-41-1181・大代表 〒280



豪華 縮刷 縮刷 縮刷	豪華 價七二〇〇元 價四〇〇〇元 價七二〇〇元 價四〇〇〇元	B小型二毛賣 價二六〇〇元	B6六二一頁 價一九〇〇元	B6四一七頁 價三〇〇元	B5三六〇頁 價四四〇〇元	B5六二二頁 價六二〇〇元	B5五三九頁 價五五〇〇元	上卷 四八〇〇元	下卷 四四〇〇元	改10版 B5七〇八頁 價六八〇〇元	B5七五四頁 價五五〇〇元	B5五八七頁 價四九〇〇元	改13版 A5二七八頁 價一九〇〇元	一 卷 B5五二九頁 價四〇〇〇元	二 卷 B5五二一頁 價五五〇〇元	三 卷 B5五二一頁 價五五〇〇元	雄著 A5五四四頁 價二五〇〇元	上卷 價八〇〇〇元	中卷 價八〇〇〇元	下卷 價八〇〇〇元
----------------------	--	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	-------------	-------------	--------------------------	------------------	------------------	--------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	------------------------	--------------	--------------	--------------

薬価新収載 15mg 1管 130.00

前農山村教授 柳沢利喜雄

概論十二年のあゆみ」について述べた。昭和三十四年に医学概論を始めてから昭和三十四年に「医学概論十二年のあゆみ」について述べた。昭和三十四年に医学概論を始めてから昭和四十五年まで、十二年間を経過したのである。	「心」は選択の自由をもっている。善を選ぶか悪を選ぶかは、全く心の自由選択におかれている。自由なるが故にこそ、又大きな問題が残されている。「医の倫理」は、「医の科学」からだけは生れて来ない。科学に或るXが入って初めに、そこに「医の倫理」が形成されてくる。あたかも三大栄養素にビタミンが加わって完全栄養になる如く。
私がこの様な企画の必要性を考えたのは、医学教育の中にどうすれば「医の倫理性」が植えつけられるかを考えた結果である。	続けることの出来た理由川喜田、岡林両教授がそそ中核となってくれたから川喜田教授は「医学とは常に、そして厳く反省た。又岡林教授は「生命」を常に深思されていた。岡林教授が急に言われた。「哲学者たちは具の材料がなくて、どうし出来るのでしょうかね」

倫理性は社会成立の基本である。倫理性のない社会は成り立たない。これは歴史がよく我々に教えている。なせなら、人間と人間の関係で成立する社会を結ぶものは、最後のさきぎりは道徳以外にはないからである。

医学教育にとうすれば、Xが導入されるか。私は、それが医学概論に課された課題だと思っている。千葉大学医学部の全教授は、医学の最高の研鑽と実践をしている。しかも、人間として一人の例外もなくヒューマニズムの信奉者である。『哲学の貧困』にあると

倫理性の根本に對し信である。それは共に「心」から生じてくる。實踐の面で医学と云う科学を克服する。この教授のヒューマニズムはその原因は、哲學者が科學例へは、如何に優れた精緻な機械がセツトされても、それは人類愛を欠いているからである。それが私の言う医学概論である。その意味から私は、哲學者が科學を深味わなければならない。現代人とかみ合わない。

人間と人間の信頼感を生み出すことも出来ない。

医学は医学を否定する。それはたとえどんなに高級のそまともに医学と取組む者の避けられても、我々には「無」に

核物理学の開発が、我々を世界にない運命である。科学としての医学が「医学概論哲学」に発展せしめ、特に臨床医師の体験から

前法医教授 宮内義之介

なつていた。日曜日ともなれば、カーキ色の軍服と角帽とが盛り場を彩る軍隊と医大の街であった。大学では、現病院の基礎工事が始まったばかりで、旧基礎教室へ行く連絡道路はいったん谷間につけてから又昇つて行くようになっていて、雨の降る日は難儀をした。東京から通学していたので、千葉における四年間の学生生活の印象は、比較的稀薄である。葉核の頃は、陽田川のボートレースでよく負けたことは断片的に覚えている。

昭和六年に法医学教室に入り、加賀谷先生の下で血漬学における化学構造特異性の問題について研究した。中学の頃から推理小説を読んだのが、法医学を専攻するにだと思つた。終戦とともに

方、馬杉、鈴木（正）森とも名を連れね、會員のいかにプロに転向する程のようであった。

次第に日支要が拡大、十三年に軍医予備員となつた。には中支那の廬山の戦列のこととなつた。臨床の終つたので、歩兵部隊付きの見もある。廬山攻略戦、德安修水河の渡河戦、南昌攻修水河の渡河戦、南昌攻

州、信陽等に転戦し、常激しく死傷者の多発するに属された。よく生き永らだと思つた。終戦とともに

武義善除 展した頃、 学生諸君の サークル活	えたもの 中隊に配 室のことに ようやくに 学内でも落 着きを取戻	武昌、岳 吹きこんで くる窓ガラス 、朽ち曳	略戦を繰 の邸下にな った泥、破 れて雨の	医長官で 年の学界へ の空白をか えて、温	験がない マリアに荒 廢した心身 と八ヶ	り、八月 玄海灘から 五島列島に かけての海	し、昭和 砲臺に乗つ て内地に近 づいた時の	熱の入れ て内地に向 った。菜の花 が果しな	赤松、緒 まらなかつ た。昭和二十 一年の春	田教授な り。
--	---	--	---	---	--	--	--	--	--	---

◇ 回収数は、千三であり、以下回答の主な内容をまとめてみました

動物盛心になり、写真部、卓球部すこし遅れて囲碁部の各部長におされ、楽しい想い出も多い。数年来、学園紛争が各所に発生しいつ果てるとも見えなかったが、最近では次第に治まりつつあるように見える。形は異なるけれども、私も学生時代に一度ほど経験してゐる。

本年の二月で六十五才になり、退官の年令に達した。昭和二年から四十六年まで、本学関係の温かい皆さんの中で悔いのない生活を上げた。

送ることが出来たと思つている。人に会うたびに退官の感想を聞かれる。文字通り肩の荷が下りたような気が先に立つて、申し訳ないやうである。もつとも、時日が経つにつれて淋しさに襲われはしまいかと心配もしている。これから精神々他人に迷惑をかけない新しい人生を楽しみたいと願つてゐる。長いことお世話になった本学と皆さんに、心からお礼を申し上げます。

不熱心さと責任感の欠如をあげ、早期の入局を希望する意見である入局に關しては、効果があがつた

③について
 各科独自の判断による……二
 卒前教育の充実は先決……二
 四年から六年間ぐらい……八
 指導教官の充足を重視……二
 大学、大病院の有機的一連関による……四
 研修中の有給化………二
 卒後研修は大学病院外とする………三
 ……三
 卒後教育の場を大学病院だけで行うのは不可能というのが普通の意見である。
 以上大体の要旨をまとめてみましたが、今後の臨床研修の方法論として今年から実際にこなすべきかということになると以下の三つの意見にまとめられよう。
 一、すみやかに入局し、その中から新しい研修方法をみつけ、大学の改革をおこなう。
 一、早急の卒後研修協議会を開き長期プランをたてる。
 一、今までの方式を求めつつ、新しい方法を考え出す。

字の深い
 にはあるま
 る。岡林教
 哲は、
 であつた
 等しい。
 必ずしも
 生れて来
 であつた。
 ので、その
 の写真の
 ちで、太
 陽が中天
 にかかり
 野

価値づける哲学、それが医学概論
 である。
 十二年のあゆみを省みて、私が
 母校千葉大学に学徒の一人として
 縁づけられたことを何よりも感謝
 する。時に同窓会の皆さんの御健
 康と御発展を祈つて、私の教授後
 官の挨拶とする。

③長期的にみて、今後卒後研修はどのようにしたらよいか。その期間はどのくらいが適当か。また研修後の身分はどうなるか（各料による事情がちがうと思えますから、金銭と各料内でのあり方とわけ下さす）

④臨床系大学院について。

あるいは、その他に意見ご

修修協議会などの卒後に関する
 協議会設置希望……二
 何らかの身分確立による研修
 ……五
 非常勤医、研究生あるいは研修全
 体を管理化機構化した上での身分
 確立をもとめている。
 教授会の決定を示すべき……一
 決定権のある教授会が研修をさせ
 るのかさせないかを決めることが
 先決であるとしている。
 研修生の内容を問うもの……一
 将来の目的が不明確で「スロー
 ー」の医師が十人以上いる。この
 トコロという点で意義がなれない
 する意見が大部分である。それに
 代わって一本化した研修制をもう
 けるべきとする意見と、現行の制
 度を存続させうまく利用した方が
 よいという意見にわかれる。大学
 の研究の進歩の裏付けとして大学
 院を位置づけるものと、もはや方
 法を一つにしなければとすべきと
 なにわかれてい。回答は、本平
 こうあるべきとする大学院像から
 論をすすめているものと、現行の
 大学院論論よりすすめているものと

助講会アンケートより

現在、卒後臨床研修問題は大詰めに來ており、今後の動向があまりよくまれてゐるが、このほど助学会が助産師層に左記の様な内容のアンケートを行なつた。 アンケート内容 ①この一年間行なわれた「契約研修」についてどう評価するか。 (医局へ入つた場合とくらべて具体的に指摘して下さい。研修効果その他項目別に上げて下さると幸いです。 ②この三月末日で研修契約がじつさいに切れる。 (現在、形式的には切れており現状凍結ということで、三月一杯つづくというかたちになつて	①について 従来の入局との研修効果比較 効果があがつた……六 効果は同じ………九 効果がさがつた……八 効果があつたと言う者でも、全面的に良かったと言つてゐる者はいない。医学部—医局改革の発端となり推進力となつた点では充分評価できること、自主的自由な研修であること、従来の入局より力が入りキエラムがたつたことなど良い面がでてきたことが認められてゐる。しかし、自主自由ということ
(現在、形式的には切れており現状凍結ということで、三月一杯つづくというかたちになつて	で、教職員との隔りができ人間関係が保てない、途中で脱落する者がでてきたという点が指摘され

同じとする者の中にも希望している者があり、その理由の一つに医局が民主化したと云うものが多いこの点を否定している意見もあり
医長→教授→医局上層部の任意の采配を懸念する意見もある。効
果がさがつたという中に、研修は個人的問題とし、個人的契約を望む意見もある。

③について

再度契約すること……三
再契約を望むもの全てが現状では無理であらうと注釈がついている
入局研修すること……九
入局しての改革を望むもの、医長の責任における充実した研修、非常勤医制による安定化と無給研究生の反対などが理由としてあげられてゐる。

見であるが、大学病院を卒前教育の場のみにするべきという意見もある。研修方法も各料によつて事情が違つとし、幾通りかの方法を考へるべきというものが多い。い
れにせよ、医進コースも含めた卒前教育の抜本的改革、指導スタッフ増員や研修生の有給化、研修生の明確な目的意識、教授会の研修に對する明確な意思表示が基本的条件としてあげられている。

④について

現在の大学院は無意味……六
無意味だが一つの研修研究の場として使用可能……一〇
大学院に研修後などに入学すべき……七

現行の臨床系大学院は、予算、人員の面で専ら基礎医学のアン



健康はキョーリンの願いです

安全有効性が注目された

非ピリン系新鎮痛剤

キョーリンAP2[®]顆粒

化 学 名：1.4ビス(メトオキシプロピルフェ
ノキシアセチル) ピペラジン

国際一般名：シメトリド (Simetride)

杏林研究陣が開発したアセチルピペラジン誘導
体の全く新しい分野の非ピリン系鎮痛剤です。

薬価基準：1g 43.⁰⁰



キョーリン薬品

東京都千代田区神田新富町2-1-5

臨床医家と共に前進する週刊医学雑誌！

日本医事新報

内 容>

学説」「学会印象記」「カラー・グラフ」「ニュース」
MEDICAL・ESSAY」「時論」「人」「学会案内」
学位授与」「一週一話」「私の考え方」「私の処方」
質疑応答」「閑窓夜話」「お茶水だより」「医事案内」
の他

定 価>

部 125円 (送料18円) 6ヵ月 3,200円 (送料共)
ヵ月 1,600円 (送料共) 1ヵ年 6,300円 (送料共)

毎週土曜日発行
B 5 判 200余頁

カラーグラフ別刷集

<好評発売中>

皮膚疾患 100 例

千葉大学名誉教授 竹内 勝
定価 1,500円 干共 B 5 判112頁

血液像と骨髓像

東京医科歯科大学教授小宮正文
定価 700円 干共 B 5 判 46頁

胃カメラ診断

日本大学教授 有賀槐三
定価 500円 干共 B 5 判 30頁

日本医事新報社

〒101-91 東京都千代田区神田駿河台 2-9
電 話 (292) 1551 (大代表) 振替東京25171

特集

採血事件

千葉大付属病院において医師と看護婦が採血用吸引器の操作を誤って献血者を死に至らせた「千葉大採血事件」で、妻など遺族四人が「国は一億六千万を支援し、千葉大地方裁判所佐倉支部に訴訟を提起した損害賠償額約千九百五十万円に開かれ、判決は賠償額は遺族の主張をほぼ全面的に認め「国は一億六千万を支援し」と国側の全面敗訴の判決を言い渡した。

この事件は、四十四年四月、健康な献血者が第一内科で採血して、多田看護婦が吸引器の右と左を誤ったため、多量の空気が献血者の体内に注入され、献血者が死亡した事件である。千葉地裁はこの事件を単なるミスと見て、看護婦と多田看護婦を業務上過失致死容疑で起訴した。

これに対し、等質医師は起訴状を全面的に否認したが、多田看護婦は自分の被害者に対する個人的責任は決して消えはしないと主張し、現在の千葉大付属病院で看護婦の過重労働や、不当な機械の使用が行なわれ、同様に死んだ看護婦も、この事件の責任は大学の管理にあることを、この事件を通じて告発してゆく、と明らかにした。

そして、そのためには大学内部からの告発が必要であり、医師も看護婦も、まず自らが加害者であることを告発せねばならないと呼びかけ、自らも、第三回公判にて自らを告発するとし、次のような陳述を行った。(陳述部分は朝日新聞より掲載)

「死」事故例一和田五平さん(当時一九九。動悸と胸部締めつけを訴える患者さんでした。入院後、

大学病院の病室で看護婦は、いろいろと疑念を、医師への従属と、早く注射液をつめるか、いかしてスイッチを入れ、松井さん

被告の弁護人である井氏(元件に対する関心が低いことは残念な九大法学部長)も「採血器の操作

新病院は青写真も出来、猶しも開近いらしいが、現在のこの状態を見ると、臓器別分化等、各部門の合理化がなされても、入れ物だけではない」と述べ、責任は、業務上過失致死で済むのか、という感じが強い。

今日の医学界のテーマは、「医学の進歩と倫理」ということだが、現在の医学界に對する根本的な問いかけであるこの事件を私達はもう一度考えなおす必要があるのではないだろうか。

大学病院のあり方

国立大学病院長会議答申

全国国立大学病院長会議において、過の改善を求め、これに伴って内閣府と昭和43年5月大学病院の改革を目的として「大学病院あり方委員会」を設け、大学病院の基本的なあり方について具体的な検討を行なうことを決めた。その後「あり方委員会」は病院長会議および常置委員会と交流しながら、会議と討議を重ね、去年10月6日病院長会議に答申を行なった。その内容について、本報は、この答申案が今後、大学病院の方向を示唆するものと考え、紙面の都合上その中で最も重要と思われる「当面の緊急課題」をここに掲載します。

「当面の緊急課題」
大学病院の改革は、次の各方面から行なわれなければならない。まず、大学自ら、医学と医療の本質を認識し、現在のあり方の矛盾と欠陥を認識し、その是正方策を検討してこれを実行に移さなければならない。

制度的には、政府に対して医学部および附属病院の予算の適正な増額および定員の増員と待

「必要定員の確保」
各種の職種について必要定員の確保のための抜本的な増員が、現代の大学病院に必要である。現行の定員は、行政の削減化のため一律に削減され、定員不足の状況にある附属病院や医学部に行なわれるべきでないことは論をまたない。

「教育」
医学部と病院の教育(教授、助教、講師)のいゆる指導教官と助手である教育の定員は、学生数一〇〇人に対して、臨床部門は指導教官(学部定員十病院定員一三〇)、教育(学部定員十増額および定員の増員と待

「その他の職員」
看護婦、薬剤師、医務員および研究技術員、事務員(タイピストを含む)を格段に増員する。教育、医療職または特別職の新設など」

大学病院の医師は、教育職であ

「学校格差の廃止」
現在国立大学の医学部において、学生数が増え、授業料も高くなり、研究費も増え、予算と各種定員の格差がはげしくなっている。格差の廃止はすべての大学の画一化を意味するものではない。各医

育されることである。このために、は少なくとも数個の病院が必要である。この意味で大学病院と関連して、関連病院と呼ばれる。関連病院は既に述べた大学病院の診療部門(必要研究もなければならぬ)に準じて人的、物的の整備がなされ、その時代の必要レベルの診療が行なわれているべきである。関連病院の整備は、現行の医療費を充分に保障する方向で、現行の医療費を

「必要定員の確保」
各種の職種について必要定員の確保のための抜本的な増員が、現代の大学病院に必要である。現行の定員は、行政の削減化のため一律に削減され、定員不足の状況にある附属病院や医学部に行なわれるべきでないことは論をまたない。

「教育」
医学部と病院の教育(教授、助教、講師)のいゆる指導教官と助手である教育の定員は、学生数一〇〇人に対して、臨床部門は指導教官(学部定員十病院定員一三〇)、教育(学部定員十増額および定員の増員と待

「その他の職員」
看護婦、薬剤師、医務員および研究技術員、事務員(タイピストを含む)を格段に増員する。教育、医療職または特別職の新設など」

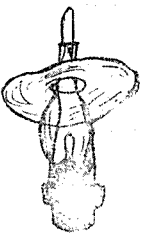
大学病院の医師は、教育職であ

「学校格差の廃止」
現在国立大学の医学部において、学生数が増え、授業料も高くなり、研究費も増え、予算と各種定員の格差がはげしくなっている。格差の廃止はすべての大学の画一化を意味するものではない。各医

育されることである。このために、は少なくとも数個の病院が必要である。この意味で大学病院と関連して、関連病院と呼ばれる。関連病院は既に述べた大学病院の診療部門(必要研究もなければならぬ)に準じて人的、物的の整備がなされ、その時代の必要レベルの診療が行なわれているべきである。関連病院の整備は、現行の医療費を充分に保障する方向で、現行の医療費を

「必要定員の確保」
各種の職種について必要定員の確保のための抜本的な増員が、現代の大学病院に必要である。現行の定員は、行政の削減化のため一律に削減され、定員不足の状況にある附属病院や医学部に行なわれるべきでないことは論をまたない。

「教育」
医学部と病院の教育(教授、助教、講師)のいゆる指導教官と助手である教育の定員は、学生数一〇〇人に対して、臨床部門は指導教官(学部定員十病院定員一三〇)、教育(学部定員十増額および定員の増員と待



〔健保適用〕

組織呼吸促進

組織栄養改善

末梢血管拡張

損傷組織賦活剤

エクリガン錠・注

(包装)錠 500T, 1000T, 500QT
注 (筋注用) 1×5, 1×50

日研化学株式会社 (文庫贈呈)

東京都中央区日本橋通1-5

糖尿病のコントロールに

経口性糖尿病治療薬

ゴンドラオン錠

日本シエーリング株式会社

Schering

